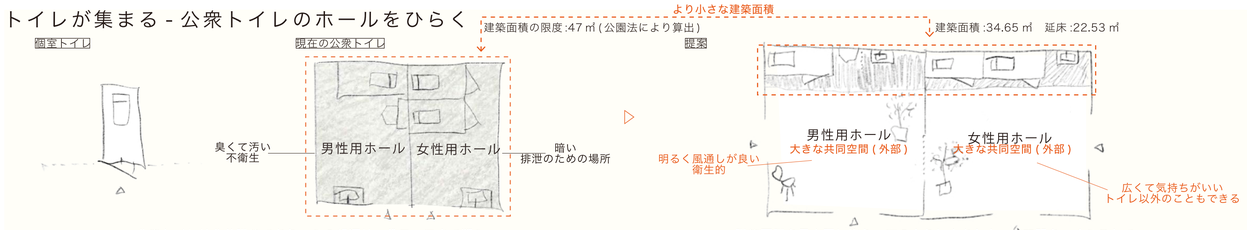
トイレが集まる、トイレに集まる

トイレが集まる - 公衆トイレのホールをひらく

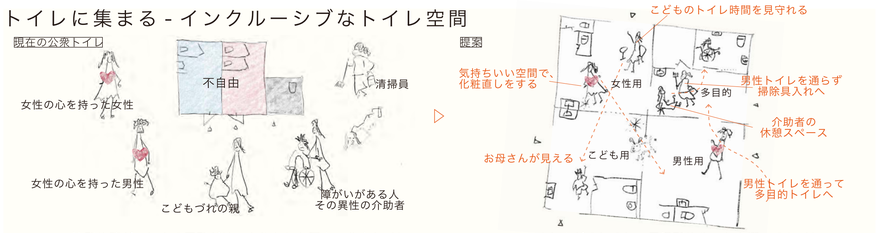


公衆トイレは公共建築であり、その起源は古代ローマまで遡る
ここでは、トイレのホールを公衆トイレならではの公共空間と捉え直す

建築面積を最小限に抑え、庭のように大きな水ホール空間をつくることで
公衆トイレは排泄以外の行為を許容する公共空間となる

大きくて明るいトイレ空間

トイレに集まる - インクルーシブなトイレ空間



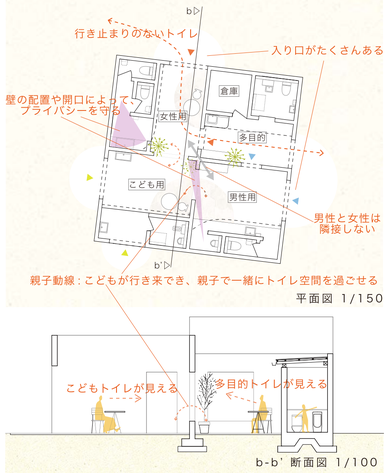
性別や障がいによる区別がはっきりとした現在の公衆トイレ

いろいろな人がそれぞれの居場所やルートを選べるトイレ

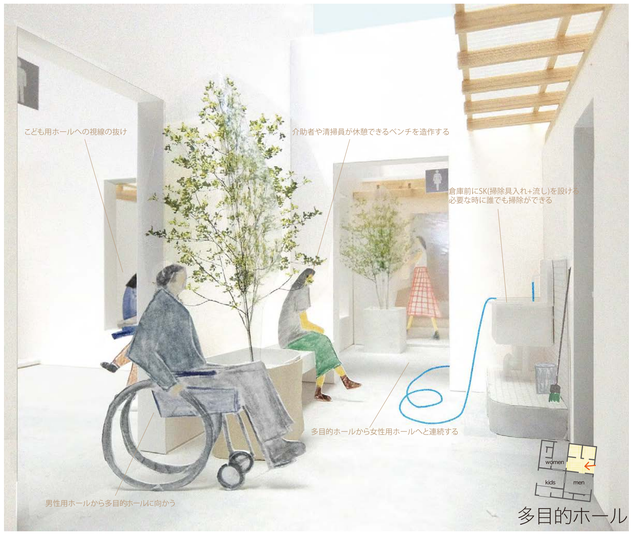
年齢やジェンダー、障がいに関わらず誰もが共にいられるトイレ空間

ホールをひらくと、安心安全な公衆トイレへ

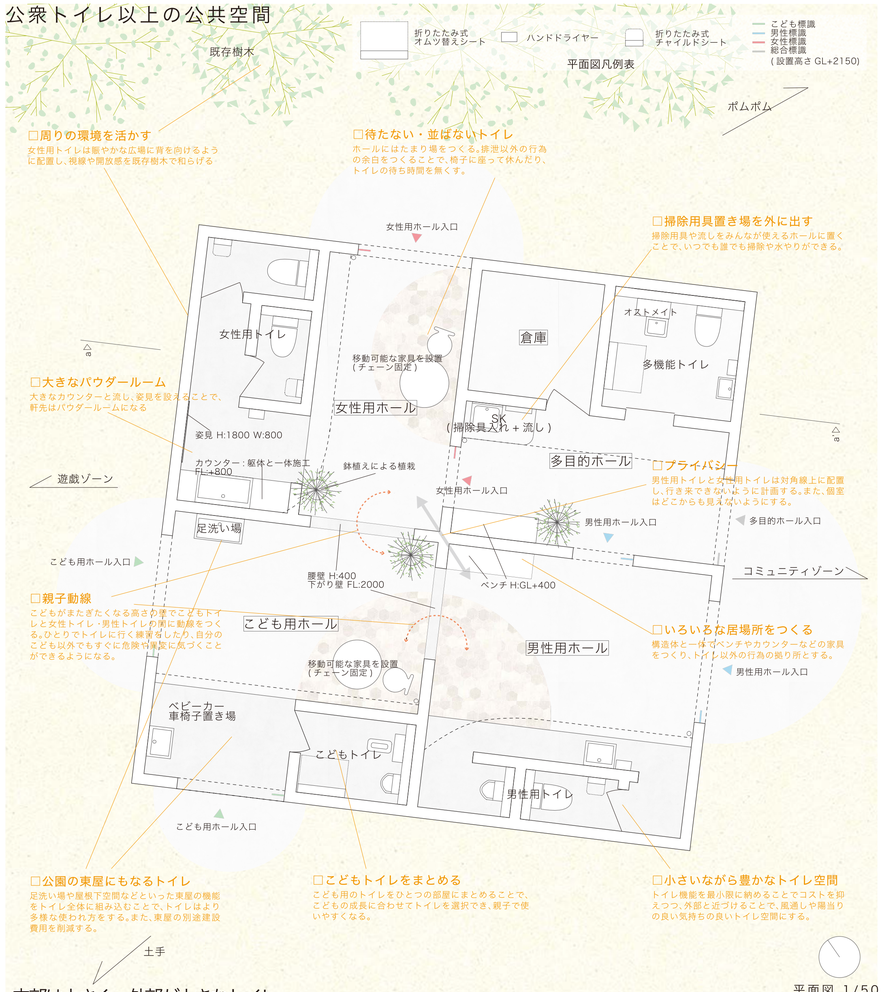
これまでの公衆トイレで閉じられてきたホールを、個室への出入りなどのプライバシーを保ちながらひらきます。そうすることで、建物の行き止まりを無くしたり、どの部屋からも子供の様子や、要介護者の様子が見渡せるようになり、犯罪や事故が起きにくい、明るい安心安全なトイレ空間をつくります。



ホールをひらくと、



公衆トイレ以上の公共空間



ホールをひらくと、明るく衛生的な公衆トイレへ

これまで、個室と外部の間にあり、暗くて不衛生だったホール空間をひらくことで、個室から直接外部に出られるトイレをつくります。個室が外に近づくことで、臭いや清掃の問題を解決し、衛生的で快適なトイレ空間が生まれます。

常に衛生的な掃除のしやすいホール空間　明るく、風通しの良いトイレ空間

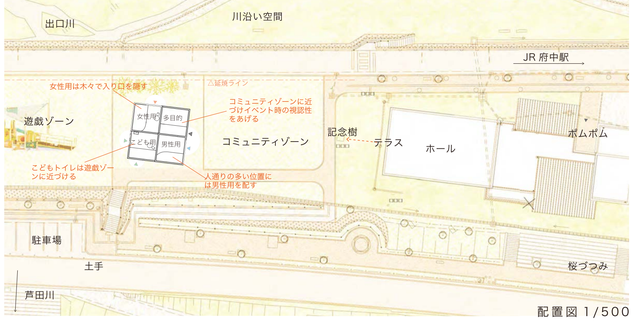
ホールをひらくと、周辺機能と連続する

ホールをひらき、トイレ以外の行為を許容する場所とすることで、公衆トイレは公園などの周辺機能をサポートする公共建築に変わります。足洗い場など、公園の東屋的機能や、賑やかな遊戯スペースから隠れた休憩所、イベント時のたまり場として様々な場面でいろいろな使われ方をします。

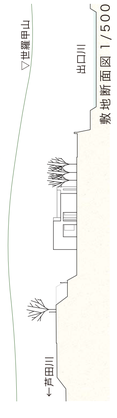
イベント時にはトイレついでの休憩スペースとして使われる。また視線が奥まで抜ける。

四周の環境に向かって建築を建てる

四周を川沿い空間・土手・ポムポム・遊戯ゾーンに囲まれた敷地は、どの方向からも等しくアクセスや視線が存在します。そこで、建築の外形を正方形にすることで、どの方向からももわかりやすく、この場所全体のアイコンとなるような建築とします。また、高さを少しずつずらしながら立面ができることで、土手や出口川、周囲の山々と連続する外観をつくります。



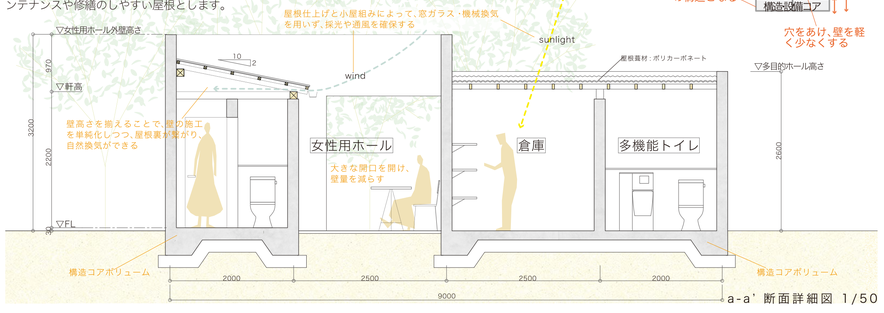
配置図 1/500



敷地断面図 1/500

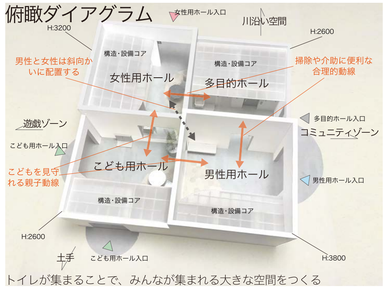
小さくかつ、大きくつくる

トイレ設備が入る小さな室内空間を構造コアとし、分散配置します。分散したそれぞれのコアを結ぶように外壁をつくり、小さな構造コア (トイレ設備) でより大きな公共空間 (ホール) をつくります。内・外壁は RC 壁式構造として一体的につくることで、施工を単純化します。さらに、プライバシーを保ちつつ壁に大きな穴をあけていくことで、視線の抜けや開放感をつくりながら壁量を減らしコストを削減します。また、屋根は安価な規格品を効果的に用いた簡素な屋根とし、光や風を取り入れられる、メンテナンスや修繕のしやすい屋根とします。



a-a' 断面詳細図 1/50

俯瞰ダイアグラム



トイレが集まることで、みんなが集まれる大きな空間をつくる

コストコントロールが容易な冗長性のあるプラン

「ホール」と「最低限の設備空間」という単純な構成でつくられる建築は、設計段階での規模の縮小や、それに伴うプラン変更に柔軟に対応できます。また、ガラス窓を用いず、屋根部分や室内は規格品や既製品を効果的にかつ意匠的に利用し、予算の範囲内で快適なトイレ空間をつくることを徹底します。

内部は小さく、外部が大きなトイレ

建物を大きくし中庭をつくり、トイレのホール空間とすることで、最低限の建築面積で、より大きな建築をつくります。そうすることで屋根や床の施工面積を抑えつつ、みんなが集まれる大きな公衆トイレをつくります。

面積表

敷地面積	建築面積(東屋を含む)	延床面積	建ぺい率	容積率
2600 ㎡	34.65 ㎡	22.53 ㎡	1.33%<2%	0.87%